

事件番号 昭和六十二年(中)第ニ四二号

証人尋問調書

(この調書は、第一五回公判調書と一体となるものである。)

裁判所書記官印



氏名

栗尾 勝

年齢

昭和四〇年八月一九日生

職業

大学生

住居

岡山市下伊福二一六一四一
山本方

尋問及び供述

別紙速記録のとおり

以上

原本番号 昭和六一年刑第一五五号の一八

速記録

昭和六三年一月二十九日

第 回

事件番号 昭和六一年(初)第一三四二号

証人 氏名

栗尾 勝

弁護人 (川 窪)

証人は今何をしておられますか。

学生です。

どこの。

岡山大学です。

証人は大阪高等裁判所の一〇〇七号法廷で昭和六一年三月二十四日午後一時から開かれた民事事件の法廷に行つたことがありますか。

はい、あります。



裁 判 所

どういう立場で行かれましたか。

立場というと。

単なる傍聴人なのか当事者なのか。

傍聴人です。

あなたがA三六七公判にかかわりを持つようになったのはどういふところからでしょうか。

先程、言いましたように岡山大学の大学祭なんです、八五年度のうちの大学祭の実行委員ということでサークルの代表で出ていまして、岡山大学祭というのが過去からずっと例えば執行団体に立候補しないとかがそういう団体が多いという感じで、無責任とか無関心の状況というのが過去から問題になっていましてそういうものの追及ということで説明というかそういう感じのことを例年ずつと行われてきておりました、そのなかで僕が八五年度にかかわってきたんですが、そこで大学祭の基調というものを出しますが、そのなかでその原因に単

位制とか家族制であるとか、そういうものと関係があるんじゃないかというよ
うないろんな討論とかあったんですが、その討論の持続とか展開という意味で、
大学祭の期間中に大学祭の実行企画として、シンポジウムをもうけたんです。
そのシンポジウムというのに合計四団体で共同企画というのがありまして、八
五年度の実行委員とその前年度八四年度に大学祭を考えるシンポジウムとい
うのがあったんですが、そのシンポジウムの構成員の方と、後、その年の学友会
の総務委員というのがありまして、岡山大学の全学組織の執行団体になってい
るんですが、その総務委員の方と、とにかく四団体の合同企画でありまして、
そのシンポジウムに出てきた一つのテーマとしてA三六七とかA三六七公判と
いうもののテーマが出てきたと。初めて僕がかかわったのがそれが最初でした。
このA三六七公判ではこの三月二四日に来られたのが初めてですか。

二月一〇日に来ています。

三月二四日の前の公判ですね。

はい。

二月一〇日にも来ておると。

はい。

三月二四日の日は、裁判の当初からおりましたか。

はい。

裁判官が入ってきて裁判が始まる、開廷する前から法廷内には入っておられましたか。

はい。

警備員の状況を簡単に聞きますが、裁判所の警備員の制服をご存じですか。

はい。

そういう制服を着た警備員の方は法廷のなかに何人くらいおられますか。

僕の記憶では大体作りはいっしょじゃないかと思うんですが、……あの辺りは二人。

松下さんという控訴人が座っている席。

はい。傍聴人の席の後ろのほうに三人、人数ははっきり分かりませんがおられたように思います。

あなたはこの三月二四日の傍聴はずっと終わりまでおられましたか。

いました。

そのなかで特に記憶に残っていることありましたら、簡単に言ってください。

根本さんの関連でしたら、まず事実だけ言うと根本さんがその辺の位置で殴られたのはちゃんと見ました。

その辺の位置とおっしゃったのは、松下さんがおる控訴人席のところに近い傍聴席から控訴人のほうに入る境目寄りのなかに入ったほうですか。

越えて入ってきたと思います。

控訴人席のほうに入っていた辺りで、根本さんが殴られたのを見たということですか。

はい。

だれにどういうふうに殴られたんですか。

僕が見たのでは、一応根本さんが入って来られて、そちらにおられた二人のうちの控訴人席の後ろのほうにおられた警備員のうちの一人だと思います。僕の印象では入ってきたのを見て、いきなり殴ったような感じで見ました。

何で、根本さんが入っていったのか見ておりましたか。

：先程、言っていました控訴人席の後ろの警備員の方が松下さんのほうにて羽交締めかなんかして捕まえるみたいな感じになったので、それを助けに行くとするかそんな感じで根本さんが入ってこられたんだと思います。

警備員の方がなぜ松下さんを羽交締めにしたのかその原因は思い当たりますか。

一応、その場は割りと騒然としていたんですが。

松下さんがなんか羽交締めを受けるような原因になるような行為をされたんですか。

僕は後から人に聞いた話ですが、酒パックを投げたというのを聞きましたが、僕が見たのは酒パックで宙を飛んでいるのは見ましたが、松下さんが投げたところは見ていません。だから、それが原因だということの後で思いました。

根本さんはどんな状態で松下さんのほうに行ったんですか。その行きかたですね、普通に通に歩いて行ったのかあるいは走って行ったのかそういう点はどうですか。

歩いてというかゆっくり行ったような感じではなかったと思います。

あわてて駆け付けるような状態ですか。

そういう印象受けました。

殴られ方にもいろいろありますが、どんなふうでしたか。

場所というのは分からないんですが、上半身その辺りを拳で割りと思いきりという感じで殴られたように思います。

ほかには。

入ってきて真ん中の列の二番目くらいの傍聴人席にいたんですが、裁判官が来られて礼、着席があつてほとんど聞き取れなかったんですが、その後、僕も何か言われてすぐなかに入られるような感じありまして、何が起こったのか分からなかったんですが、それから酒パックが宙に飛んでいるのは見ました。で、

位置関係としては三人おられる最後の方が入られるのを見たのと、酒バックが飛んだのは大体同じ頃だったと記憶しております。

退廷命令とか拘束命令とかそういう言葉を発せられたかどうかその点はいかががでしようか。

そういうのは言ったような気配は全くなかったです。最初に言われたのはボソボソと言われてその後は何も言われていないと思います。

警備員さんの方が傍聴人や当事者を排除されたように聞いているんですが、そういうことあなた見ておられますか。

はい。

あなたも排除されましたか。

はい。

排除の状況はどういう具合でしたか。

僕自身に対する排除の仕方としては、それほど暴力的な感じではなく、傍

加
一
字

聴席の椅子につまずいたりというのはありましたが、それほどでもなかったです。でも、現場は見ておりませんが、倒れた方もいらっしゃいました。ぼくに
関して言えばそれほどひどいという感じではなかったです。暴力的な行為を受
ける感もありませんでした。

あなたはほかの人に対して^の関係でもいいけれども、なんか暴力的な行為を見たことあ
りますか。

先程、言いましたが、根本さんが殴られた場面と、今特に思い出すのはそのく
らいです。

そのことについて何か感じたことはありませんか。

根本さんが殴られて、割りとその方と接近した状況になっていて、で、具体的
に例えば服をつかんだとか手をつかんだというのは分からなかったんですが、
その間を警備員の方が割って入って来られて、その後同僚の警備員が殴った警
備員の方を連れて行くというかというような感じありましたので、法廷外で。

戊

リ

斤

僕はそれを見てそういう行為がなかったもののようにするんじゃないかという
ような感じ受けました。その後、殴った警備員の方は名前はどう言われるんで
すかと先程殴られたという行為を見ましたがとかそういう質問を法廷内でも法
廷外でもしたんですが、どなたも知らない見ていないという、ますます不信を
持つようになりました。

武の心構えのあるような感じの人はいなかったですか。

特になかったです。

それから、あなたはその法廷から排除された後でどこにおりましたか。
割りとか所にとどまっているような感じなかったんですが、一〇〇七、一〇

〇八の間の廊下、後、証人の控室にも入ったことありますし。

検察官請求番号二、実況見分調書添付の見取り図第五号を示す

この見取り図で、あなたが今述べられた証人控室というのはどこですか。
ここです。

一〇〇八号法廷と一〇〇七号法廷の間にある証人控室。

はい。

そうすると、あなたはそういう証人控室に行かれたというんですか。

はい、入ったことがあります。

この証人控室にいないときはどの辺におったんですか。

いろいろな場所に動いたので特定できないんですが、この一〇〇七と一〇〇八の間の壁際に横たわっていたりとか、こちらのほうの……

こちらというのは公衆廊下のほうですか。

公衆廊下の割りと一〇〇八号法廷のほうとか、割りと一番奥のほうに行ったことありました。

証人控室には出入りをしておったということですか。

はい、そうです。

何回くらい出入りをしていたんですか。

二、三回くらい。

何のために。

特に何のためにという感じでもなかったんです。あちこちに出現したというかそういう感じでその日は動いていました。

証人控室には二、三回入ったということなんですが、その入ったときの各階ごとはどんな様子であったかというのは覚えておられますか。

何回目に入ったかというのは僕も分かりづらいんですが、松下さんが裁判所の書記官かどうか分からないんですが、職員の方に三月二〇日に東京高裁であった裁判に関する書類がまだなかにあるんで取ってきてほしいというようなこと言われたこと、もう一つ何か取ってきてほしいということ言われたんですが、何を取ってきてほしいと言われたか記憶にありません。

証人控室のなかに松下さんがいたということですね。

はい。

それと裁判所の方がだれかおられたと。

はい。

ほかにはだれかおられましたか。

記憶してるのには、竹中さん、根本さんはおられました。

根本さんというのは被告人の根本さんですね。

はい。

ほかには。

ずっと椅子に座っておられたというか、割りと長い間おられたのはその方だと思ふんですが、僕が見ていたのでなかに入ったのは割りとたくさんおられますほかの人も出入りしておった。

はい。

その人の名前は。

鈴木さんであるとか阪本さんであるとか片山さんであるとか堀里さんであると

か、その辺は……。

松下さん、竹中さん、根本さんに関して証人控室のなかで座っておられた位置というのは、同じ位置にずっとおられたのか、それとも異動されておったかその辺はどうですか。

松下さんについては立っておられたときもあつたし、座っておられるときは大體控室の入り口に向かつて右側の椅子に座っておられたと思います。左側に根本さんと竹中さんが座られていたと思いますが、どちらがどちらという僕のほうから手前とかそういうのは覚えていません。

根本さんの状態はどんな状態でしたか。

僕が見たときは割りと前の机にうずくまったような形を取っておられたように思います。

それから、根本さんとか松下さんが証人控室に連れ出された点については、あなた見たり聞いたりしていませんか。

証人控室から出る瞬間そういうのは見ていないと思います。

そういう松下さんとか根本さんが証人控室から出てきたことは当日知っていますね。

はい。

その大まかな状況は見ていますね。

はい。

そのことがあったときのあなたの位置ですね、どこにおられたんでしょうか。

先程、言いました位置、一〇〇七号法廷と一〇〇八号法廷の間の廊下にいました。

速記録末尾添付の図面を示す

根本さんが出てこられるとか、根本さん松下さんが通過するのを見ていたあなたの位置を図面の上に書いてください。

(証人①と記入する)

まず時間的には根本さんと松下さんとどっちが先に出てきましたか。

根本さんです。

そのときの状況を詳しく述べてください。

根本さんが出られたときに、割りと警備員の方が何人か周りにおられたんですが、ほかにも僕以外の傍聴人であるとか多分ほかの警備員の方もおられたと思うんですが、後、陰になっていて運ばれて行く根本さんの姿は断片的にしか見れなかったんですが、どういう状況で連れて行かれたかというのは……。

あなたの記憶に残っている点だけでいいんですが。

……証人控室出たとき。

その前からでもいいですよ、出てくる前の状態からこういうことがあってこういうふうな形で出てきたと、なんか警備員の方が入って行ったりしていますが、その辺からでもいいですよ。

警備員の方が四、五人入って行かれたのは見ました。で、一応、公衆廊下というんですか、こちらのほうにも警備員の方がおられたので、特に集中して証人

控室のほうだけ見ていたというんではなかったの。

あなたがおった位置から、警備員が入って行った証人控室の内部というんですか、なかは見えましたか。

警備員の方が入った後ですと、警備員の方しか見えないみたいな印象は受けました。

なかで、どういうことが行われたり話があったりそういうことについては全く分からなかったですか。

声は聞こえませんでしたし、松下さんとか話されていたのでそういう気もしたんですが、具体的にどういう話をされたのか知りません。

なかでもめ事が起こっているかそういうことも分からなかったですか。

：：どちらかというと、公衆廊下にいた警備員のほうを見ているほうが多かったの。だから、僕がこれを見たのはほとんど控室から出てきた状態から見始めた感じが強いです。

裁 判 所

見始めたときの根本さんはどういう状況でしたか。

割りりと、警備員の方何人か四、五人の方に囲まれていたんですが、両側からつかまれていて、というかそういう感じで連れて行かれたと思うんですが、そういう場面は見たんですが、割りりとほかの傍聴人であるとか警備員の方もおられて、僕はそれから出て行かれるにつれて、公衆廊下側のところに行っただので、それを追っ掛けでというんではな~~い~~んですが、エレベーター側のほうまで途中まで行っただんですが、たくさんの警備員の方がおられたような印象受けて、その警備員の方の背中に隠れてなかなか根本さんは見られなかったです。

根本さんがどんな格好でいたのか、上を向いていたのか下を向いていたのかそれも分からないんですか。

全然見ていないんじゃないかと、断片的には根本さんがそういう感じで両側を取られて連れて行かれている様子は見ております。

連れて行かれるにしても、いやいやというか抵抗して無理矢理連れて行かれるのと、

素直に行く場合とかいろいろ考えられます。そういう点ではどう印象でしたか。

それはもちろんいやいやというか、連れて行かれるのを阻止するというかそういう動きをしていたと思います。

その点で何かあなたが見始めてからあなたがエレベーターのほうまで行く間に、警備員あるいは根本さんの言葉で覚えていることがありますか。

一〇〇七と一〇〇八の間の廊下の辺りからエレベーターのほうまで消えるまで、公務執行妨害だとか、けたとかそういうのをずっと何回も繰り返して、エレベーターのほうまで言っておられたと思います。

だが。

警備員の方です。

(以上 松岡圭子)

弁 護 人（川 窪）

警備員の方が公妨だとか、蹴ったとかという言葉を言っておったということなんです。それが、それに対して根本さんのほうからなんらかの応答がなされておったかどうかはいかがですか。

根本さんの言葉は聞いてません。

聞いていない。

はい。

それからあなたが見てる間の範囲で、根本さんが人を蹴ったりですね、あるいは殴ったりとか、なんかそういうふうな状態を見たことがありますか。

ありません。

なかった。

はい。

先程の添付する図面に、あなたが最初に根本さんが見えたというんですか、見始

めた時の根本さんの位置を②で書いていただけですか。

(図面に記入した)

そのほか根本さんが連れ出されることに関して述べておくようなことがありますか。

印象になってしまふんですけど、割と公妨だ公妨だというのがあまりにも頻繁に騒がしく言われてるもんで、なんか変な印象は受けましたけどうん。

なんか変な印象というか、自分を正当化しているというか、警備員の方が、そういうような印象は受けました。それから松下さんの時はどういう状態でしたか。

先程言いましたように、根本さんが連れて行かれるに従って公衆廊下のほうに出て、エレベーターのほうにいくらか移動してたんで、松下さんを見たのは公衆廊下の、ええと……、エレベーターのあるところと、こ

の間の廊下との中間ぐらいの位置で松下さんの姿は見ました。

それはどんな状態だったですか。

両手両足を一本ずつ、一人ずつというか、警備員の方が持っておられて、その周りにも警備員の方がおられましたけど、そういう状態で運ばれて行く様子は見ました。

松下さんの体を運ぶのに四人の警備員が腕とそれから足各一本ずつを持ってたところ、こういうことですか。

はい。

それであなたはそのあとには何か、どうされましたか。

そのあとで坂本さんが松下さんのほうへですか、のほうに追いかけて行くというか、割とつかまるというか、そういう感じのところは見たんですが、そのあとどうなったかというのは見てなくて、そのあとほくは公衆廊下をまた逆に、逆にというか、その場にまだしばらくいたというよ

うな感じはするんですけど、そのあとにまたこの二つの法廷の間の廊下のあたりにまた戻って来るといふような感じだったと思います。

弁護人（池上）

一点だけ聞きます。先程ね、根本さんが運ばれて行く時に抵抗する動きがあったといふことでしたね。

はい。

具体的にはどんな動きなんですか。

だから、連れて行かれるといふか、証人控室のほうからエレベーターのほうに連れて行かれるといふか、それに対して連れて行かれないようにといふことで踏張るとか。

どんな姿勢だったんですか、仰向け、うつ伏せ、それともちゃんと立っていましたか。

ちゃんと立っていたといふか、両側から取られてたような。

両側から警備員二人に右腕左腕をそれぞれ取られていたでしょう。

と思います。

体の位置は低くなっていませんでした。

体の位置ですか。

うん、腰を落として前に足を突張っているようなことはありませんでしたか。

突張るにはもちろん腰落とすというか、そういうふうな体勢を取らないといけないとは思うんですけど。

思うことじゃなくて、あなたはどいうふうに記憶しているのか。

だから突張ってるという印象を受けたんで、そういうふうにしていたと思います。

足をバタバタさせたりはしていましたか。

バタバタという、ぼくが見た時ではそういう印象は受けませんでした。

検
察
官

先程ね、紙パックが裁判官席のほうへ飛んで行ったのは見たということ。

いえ、ぼくが見たのは裁判官席のほうにというか、割と放物線を描くというよりは、真上に、上に上がって行って下に落ちたというような感じの印象を受けてましたけど。

その落ちた先は見えない。

落ちた先というか、落ちるのが裁判官席寄りというよりは、もうすぐそこ、控訴人席のほうの上のあたりから落ちて来るといとか、そういう感じの印象です、落ちた酒パックを見たというのはありません。

なんかこう上がって行って落ちたような感じを見た。

ええ、上がって行くというような感じですよ。

それで先程ね、あなた自身も傍聴席から外に出されたという話をしましたですね。
はい。

結局は、やはり警備員の人に押し出されるような感じになるの。

それはそうですけど、根本さんに行われたような暴力とかいうほどの暴力は振るわれた記憶はないということですよ。

押し出される時に、あなた自身のほうで、なんで出なきゃいけないんだというように、あなた自身は聞いてない。

退廷命令が出ているというようなことは言っておられたのは知っていますが、自分としては、先程言いましたように、根本さんが殴られたというような事実を、割と同僚の警備員の方が殴った人間を連れて行くというようなことがありましたんで、それをなかったものにするんじゃないかというような危惧がありましたんで、それについて法廷内でもうずっと、もちろんぼくを押し出すような形になった警備員の方にも、殴った方は誰ですかとか、殴った事実を見ましたかとか、あなたの名前はどうかとかというような質問を繰返しても全然答えてくれないので、もうこのまま法廷外にただ連れ出されて、はいさよならということでもみんな帰

られたらどうにもなりませんので、そういうことでほくは一応抵抗した
んです。

そうすると、あなたがね、要するに抵抗したというかね、尋ねた時にその警備員
の人は退廷命令が出ているということは言ったわけですか。


はい、ほくはそれは聞きました。

(以上 細田良夫)

昭和六三年二月二十九日

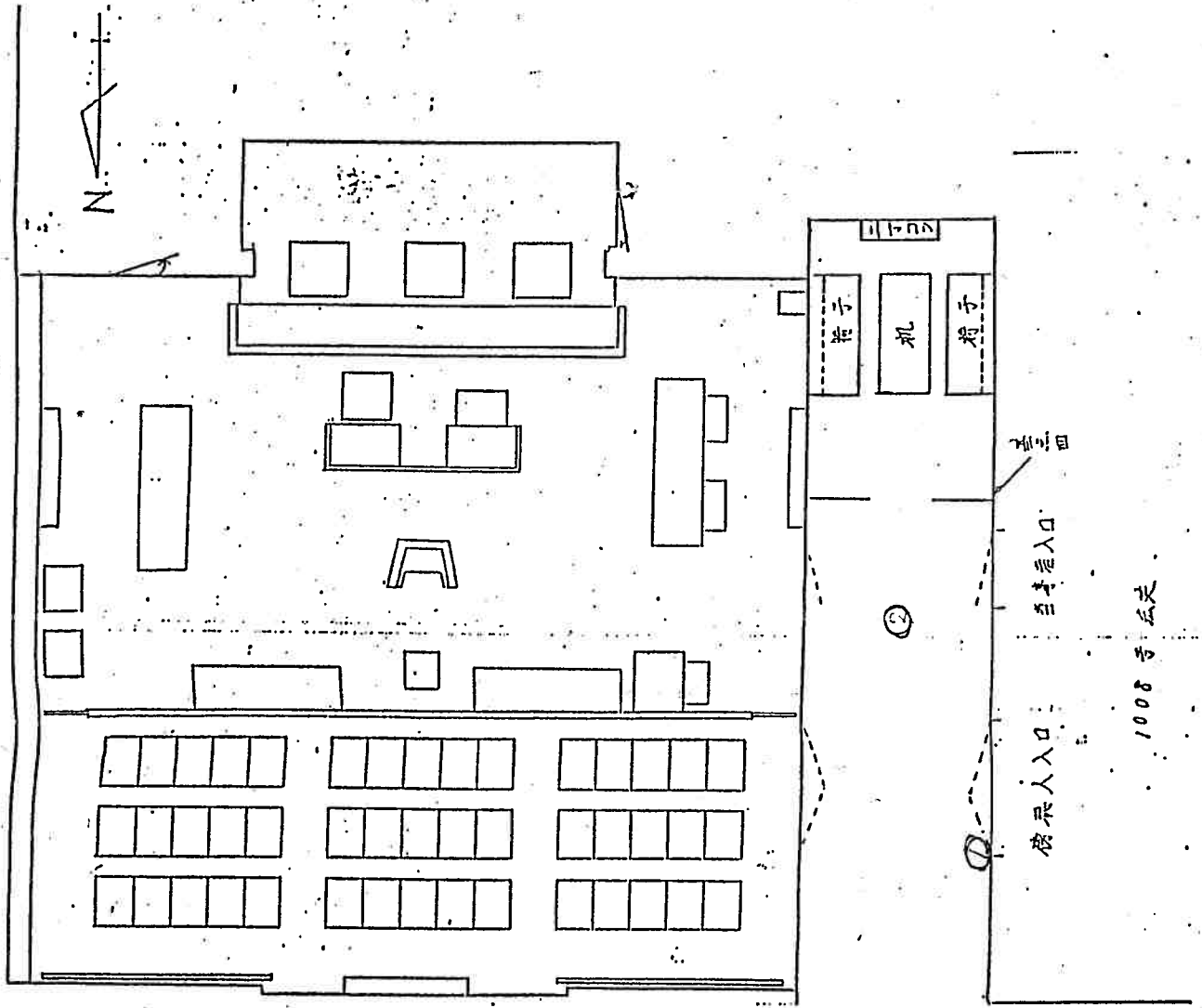
大阪地方裁判所

裁判所速記官

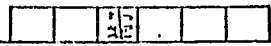
松岡 圭子 

裁判所速記官

細田 良夫 



公衆
存下



88 - 5

栗尾 勝

宣せん

誓せい

良心りょうしんにしたがい、知しつていることを
かくさず、正し直じに述のべることを誓ちいか
ます。

証人しょうにん

栗尾

勝